



会津大念仏踊の念仏太鼓の打ち方



会津大念仏踊

十念、前回向、会津三十三番観音の御詠歌、開経偈、舍利礼文、撰益文、念仏一会、総回向文、十念、四方堅、後回向、四弘誓願、三札送仏偈などが順次行じられる。

それが終ると鉦を先導にして、回向師、笛吹き、踊子が舍利礼を唱えながら、円陣をつくってゆく。太鼓打ちは並んで一定の場所につき、無量経の回向があつて踊りとなる。

最も特色とするのは念仏太鼓の打ち方で、念仏太鼓を三脚にのせ、白毛のほっすのついたばちで、踊りながら打つことである。打ち手は七、八名以上も大勢並ぶことがある。打ち方は十三通りあり、三三九度、四拍二度、大揃二十三ばち、柳ばち、宝昌上振一つ、車四つ、車袖二つ、千鳥十ばち、千鳥袖二つ、都美二つ、小揃十二ばち、結び六つ、山越綾六つとからなっている。

踊り手は多く年をとった女たちであるが、長衣裳に、手拭をかむり、盆踊りのように、輪をつくっているが、移動しないで